

# みやの森通信



発達凸凹文化の創造を目指す 第42号:2025年10月17日発行 編集長:家森 謙  
 Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733  
 メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま facebook 検索



## 99歳 つれづれエッセイ vor25

### 子育て余話2

通っているデイサービスセンターで敬老の日に白寿のお祝いの賞状を頂いた。来年少白の上に一の字がつくか、これは神さんの思し召しに頼るしかない。苦しいときの神頼みで厚かましい限りではある。

さて前回子育てについて書いた。今も子育ては社会的に大事な案件になっている。私たち夫婦が子育ての現役であったのは七十年くらい前であった。日進月歩の世の中では論旨が時代遅れのそしりを免れまい。今の私はこの問題を真正面から見つめる立場でないので遠くから眺める姿勢を取った。先ず昔八歳の孫娘が「子どもにご飯を食べさせてさえいればよいということじゃないよ」と母親に言ったことについてもう少し考えてみよう。

戦前、大家族の形態が当たり前の頃母親は家つき・嫁の立場を問わず、家事に追われていた。その結果、子育ては年寄りに任せ、時には溺愛する祖母などに甘く育てられた子どももいる。

しかし、それには救いもあった。また、子ども社会にも受け皿があった。自然も温かく迎えてくれていた。近所のおばちゃんも子育てに一役買っていた。戦後は核家族に分裂し、加えて女性の社会進出がめざましい昨今、職域と家庭は父親を含めて相剋の問題を生じた。少子化もこれにつながる。また、ゲーム機が現れてから、子どもの独り遊びの時間も増えた。そんな今、親と子どもの一体化を図るにはどうしたらよいのだろうか。

一つだけ提案がある。子どもを交えて家族会議をやることだ。子どもが幼くてもよい。参加することに意義がある。なに、忙しくて出来ない？だからやるんだよ。今度の休み何処に行こうか？キャンプはどうだろうか？子どもにも主体的に提案してもらう。無理をすることはない、出来ることをやればよいのだ。家庭内のことを話し合うのも良い。話し合うというだけで思わぬ収穫があるかも知れないよ。

伊藤博芳(みやの森カフェのお父さん)

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

みやの森通信

検索



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索



## タカチ動物園特別編

### ヒグマの頭



SNSで北海道のハンターが「ヒグマの頭いりませんか?」と書き込んでいた。これは名乗りを上げるしかない。「ください。」すぐにDMに請求された金額を振り込んだがいきなり送ってこられても困るのでしばらく取り置きしてもらうことにした。ところが、「そろそろ受けとってほしい」と言ってきた。冷蔵庫の場所を食うし、仕方がないことだ。渋々土曜日に届けてもらうことにした。

そして土曜日、クール宅急便でクマの頭部が届いた。品名には『新鮮な肉』と書いてある。間違いではない。箱から出すとでかい塊がゴロンと出てきた。両手で抱え持ち上げるとビニール袋越しにモサッとした毛皮の触感が伝わる。ガチの生首だ……

とりあえず冷凍庫にいれておこうと思ったが入らない。まあスイカよりデカイからそうなるのは当然だ。重さを量ると8.9kgもあった。ポンドで換算すると20ポンド。ボーリングの玉より重い。「やるしかない。」と腹をくくる。あらかじめ用意しておいたメス・ビニール手袋・鍋・コンロ・トロ船を野外に準備し解体することにした。

まず皮を剥ぐ、剥いだ皮は塩漬けにして新潟の剥製屋にクール宅急便で送り、鞣してもらうことにした。ツキノワグマと比較するのも面白いだろう。3か月後の完成が楽しみだ。

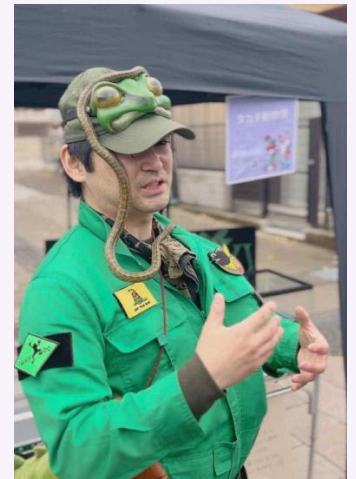
それから肉を削ぐ、筋肉繊維により、関節をどのように動かすかが分かる。頬の筋肉が発達しているので噛む力が強いことも推測できる。それもそうだ、硬いクルミだって噛み砕いて食べる生き物だ。削いでは茹でを繰り返すこと3セット。特に誰かに教えてもらったわけでもない。試行錯誤の賜物だ。1日版かけておおむね骨にできた。とはいえ完全に肉を除去できたわけではないため、腐敗臭がすごい。とりあえず外に放置して今に至る。

タカチ動物園では様々な頭骨を展示する。

頭骨からは様々な情報が分かる。

目が前についていれば物を立体的にとらえる肉食獣の特徴だし、横についていれば視野が広い草食動物の特徴だ。歯からは何をどのように食べているかがわかる。さらにタカチ動物園ではワークショップの一環で骨クイズを出す。そこで頭骨一つ一つを解説する。シカ・イノシシ・ツキノワグマ・アナグマ・タヌキ・イタチ・ウサギ・ネコ。さすがに人の頭蓋骨は調達できないのでレプリカを購入した。

インターネットや動画でなんでも知った気であるが、実際にやってみないとわからないことは多い。これこそリアルだ。



# 店主コロナに負ける… みやの森カフェ

7月コロナに倒れた私。人生2回目でした。

そして、スタッフ二人に感染させるという…(汗)

そのため、カフェは少し長いお休みをもらいました。

しかーし、事務仕事をカフェでしていた上田さんから電話。

「黒部のK君来ましたよ」

いわゆる隔離期間は過ぎていたのでマスクをしてカフェに行きました。

理由話して、「カフェやってないのよ」と言ったら、

「水と氷ください。そしてこの氷が溶けるまで居させてください」って2時間ほど喋りまくっていききました。

その後、もう一度上田さんから電話。

「S君来ました。なぜか泣いてます」というので、カフェに行きました。

またまた理由を話して、「今日はカフェやっていないのよ」と伝えました。

泣いている理由も聞きました。

「ここは福祉施設だから話聞いてもらえてありがたい」とS君。

「えーそれ、間違い。ここは福祉施設じゃないです。カフェですよ。私はカフェのおばちゃん。

だから慰めてあげられないよ」と言ってみました。わかったかわからないかよくわかりませんが、

「ありがとうございます。気分転換になりました。この首に巻くのを冷凍させてもらって、冷凍できるまで居させてください」と彼も2時間。

まあ、こういうことですね。「場」があって、そこに「人」がいるということ。それだけでいいのかもしれない。

ということで、上田さんが「明日からカフェ開きましょうよ」と言ってくれたので、スタッフにお願いして次の日からスイーツカフェ開始。

今年も後半戦に入りましたね。みやの森らしくみんなで頑張りますね。



## いただいたもの 及び Ponteとやま(みやの森カフェ)お仕事一覧 2025年8-10月

[いただいたもの] 菓子・野菜・パン・米・調味料・おもちゃ・絵本・ティッシュ・ジュース・お菓子 など

- 8月21日 いみずっ子babyの会講師(水野)
- 9月 6日 射水市保護者おしゃべり会講師(水野)
- 9月 7日 クリーンメンバー茶話会
- 9月11日 わんぱく広場(射水市発達支援室)講師(水野)
- 9月19日 射水市自立支援協議会(25名)来訪
- 9月24日 ひだまり絆・庄東はるかぜ地域会議(加藤)
- 9月26日 大空と大地のぼぴー村地域会議(加藤)
- 9月30日 高岡市ひきこもり支援関係機関連絡会(加藤)
- 10月 1日 パナソニック教育財団来訪
- 10月 5日 みんながサポーター(静岡方式を学ぶ会)
- 10月 8日 富山県高等学校教育研究発表大会図書館部会講師(水野)



みなさまのご厚意に  
心から感謝いたします!

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

みやの森通信

検索



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索



# Liberoの夏



今年の夏は本当に暑かった!連日の猛暑日に干上がってしまいそうでしたが、シェアハウスでのフリースタイルスクールには、連日、子どもたちが元気にやってきてくれました。(夏休みだからお休みの子も。夏休みだから来る子も。参加は自由、それも自己選択)

猛暑を乗り切るにはもちろん『プール』!キャーキャー言い合いながら水遊びをしていることが多いのですが、ふと声が聞こえなくなり、ちょっと心配になって覗いてみると…みんなで水に顔を付けている…潜りっこをしていたのでした。5秒!7秒!「ん?10秒潜れない?」元スイマーとしての腕が鳴りつい「みんなに勝てると思う!」と言ってしまった私💦。結果は…なんとMちゃんが30秒を超える記録をたたき出し、あえなく敗戦しました。(年には勝てない。残念。来年リベンジ!?)

そして…「夏はやっぱり流しそうめんだね〜」「去年も楽しかったね〜」という声があがり、では今年もやりますかということで…8月16日(土)夏祭り@シェアハウスLiberoを開催しました。

朝からカンカン照りとなりましたが、赤ちゃんからシニアの方々まで本当にたくさんみなさんが来てくださり、スタッフ含めて80名ほどの参加となりました。

ジュース足りないかも!焼きそばのお肉も足りないかも!…嬉しい悲鳴にバタバタアタフタしながらも、みなさんのご協力とフットワークの軽さにより、大盛況の1日となりました。

待望の「流しそうめん」にはじまり、隣では暑さに負けずお父さんチームが焼きそばとフランクフルトを焼き(汗水垂らしていたのは帰省中のえりこさんの娘さん姉妹のご夫婦!)、続いてこちらも暑さにめげずこどもたちが果敢に挑戦する巨大だるま落とし。

Libero内ではてっちゃんパパお手製の銃を使っの射的コーナー(お菓子をゲットすべく何度も何度も挑戦しました)、書道の先生でもあるてっちゃんママによる書道ワークショップ&オリジナルうちわ作り。

かき氷屋さんは、小学生Sさんがかわいい店員さんで、行列のできる店

でした!飲み物や肉を差し入れてくださった方、台所で黙々と洗い物をしてくださった方、暑い中受付を担当してくださったりさりげなくこどもたちのフォローをしてくださった方々。赤ちゃんのお世話をしたり射的コーナーのサポートをしてくれたりしたお姉さんたち。ご来場くださったみなさん、準備から頑張ったスタッフのみんな、たくさんお手伝いくださった保護者のみなさん、いつの間にか当日スタッフに巻き込まれた方々も👏みなさんのおかげで大成功🌟感謝感激の夏祭りでした。

こどもも大人もたくさん汗を流して、よく食べよく飲み、いっぱいしゃべって笑いあいました(^^)



Ponteとやま（みやの森カフェ）夏の特別企画

# Kyokoさんのお話会

8月24日に、「Kyokoさんのお話会」を開きました。

スタッフとして11年間みやの森カフェを支え続けてくれている恭子さん。臨床美術士としても活躍しています。そのほのぼのとした雰囲気にファンは多い！

さて、恭子さんは山形県出身、富山には知り合いもいない・・・そんなところから始まった子育て。さらにこどもは二人とも小学校、中学校には行かないという選択をしました。その後、こどもたちは「コミュニティハウスひとのま」を居場所にしていろいろな人と出会い、いろいろな経験をして、高校進学をしました。現在成長したお子さんの一人ヒヨリさんはみやの森カフェでおいしいケーキを焼いてくれています。弟アサヒ君は大学生になりました。

恭子さん出身大学は芸術系。先生も学生たちも凸凹があきらかなユニークな人たちだったようです。だから、「ひとのま」や

「みやの森カフェ」で出会う人たちのユニークさは全く違和感なく、楽しかったとのこと。もちろん、こどもたちが学校に行かなくなったときは、混乱や迷いがあったけれど、子どもたちは子どもたちの人生があり、自分自身も自分なりの人生があると思い、臨床美術にも挑戦したとか。

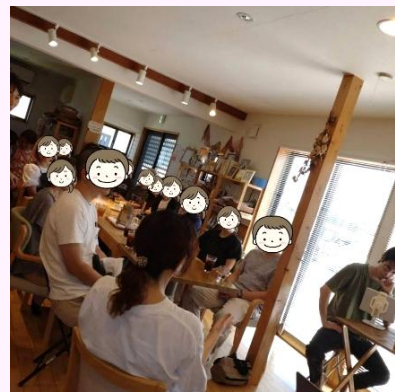
その日は、カフェが満席になりました。親としての人生、自分自身の人生はまた別であることを振り返るよい時間になったと思います。

8月24日(日)10時～  
**Kyokoさんのお話会**  
渡辺恭子さん  
臨床美術士  
みやの森カフェスタッフ  
bochi-bochiカフェオーナー

「二人のこどもたちは“不登校”でした」

カフェスタッフとして、また臨床美術士としても活躍中の恭子さん。実は、お子さんたちには「不登校」だった時期があります。  
現在、一人はカフェのスイーツを作って、もう一人は大学生として学生生活を満喫しているお子さんたち。子どもたちが「学校に行かない、行けない」時期を、どうやって乗り越えてきたのか...子どもたちと向き合ってきたのか...恭子さんのお話を聞いてみたいと思います。

Ponteとやま（みやの森カフェ）夏の特別企画



## すいにっき

気持ちをカケラに変えて

水縹 翠

みはなだ すい

文芸創作を趣味としている私は、文章を書く時、何かしらの気持ちを核にして書くことが多いです。風景を見て幸せになったり、逆に心無い言葉を見聞きして落ち込んだり。病の影響で感情（特に負の感情）に振り回されやすい私は、そんな気持ちを文章に変えることで上手くやりくりしています。

昔は純粋に『書きたいもの』を軸に書いていました。しかし、現在の病を抱え、前向きな感情や興味を悉く失ってからは『気持ち』を軸に書くことが増えました。生きていることを何度も呪われ、自他共に認める頭も出来も悪い人間ですが、そんな人間でも感じた気持ちは『本物』です。ならば、せめてその『本物』は大切にしたい。

そんな風に思い、気持ちを文章の核となる『カケラ』に変えて日々綴っています。こんなテーマを扱いたい、こんな場面を描いてみたい。

そんな『カケラ』の中に、気持ちという『カケラ』も混ざり、

やがて一つの物語を形作っていきます。気づけば、私にとって書くことは感情を『昇華』させる手段になっていました。

ただ、この書き方には一つ悩ましい点が。モチベーションがもたないんです。基本的に感情は

『一時のもの』です。瞬間的に湧き上がった感情に沿って動いたはいいものの、次第に熱が冷めて気力も冷める。その結果、お蔵入りばかり増えていきます。どうしたものか……



みやの森カフェ

# お仕事体験

今年の夏休みは、みやの森カフェに小中学生のかわいい店員さんがたくさん登場しました。「カフェのお仕事体験」というプログラムをみやの森カフェスタッフが企画してくれました。

それに応募してくれた子どもたちは「お水を配る」「注文をお聞きする」「スイーツやドリンクをお出しする」という作業だけでなく、それぞれ存分に持っている力を発揮してくれました！

8月21日は、小学生 Yくんが、得意な読み聞かせサービスをするということでお気に入りの絵本を上手に読んでくれました。

Nさんは、得意なハートの折り紙にMessageをつけてお客さまにプレゼント。お返しに名刺をくださるお客さまもいて、みんな笑顔になりました。そして、冷やしぜんざいやドリンクづくり、皿洗いにもチャレンジしてくれた人もいます。

お仕事の後は、カフェスタッフるりちゃんと、デザートプレートとラテアート作り。みんなオリジナリティ溢れる作品を楽しんで作ってくれました。その出来栄は驚きです。初めて出会った人も作業を通じて仲良しになりました。

今回この企画の中で、チャレンジする子どもたちの姿をたくさん見せてもらいました。おしごと体験は「きく」「つたえる」「つくる」「はこぶ」の集大成。その中で、自分ができることチャレンジしていく姿は、とっても素晴らしく、私たちもたくさんのことを教わった気がします。参加してくれた子どもたち、送迎して下さったご家族、とっても温かく受け入れて下さったお客様、ご協力ありがとうございました！

Ponteとやまでは、小さな子どもたちからの楽しいワークショップもたくさんしています。ぜひ、来てね。またみやの森カフェ、liberoでお会いしましょう



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索



Ponteとやま

# 就労支援

5年の間にいろんなことが

9月7日、みやの森カフェにて、Ponteクリーンチームのお茶会を開きました。2020年大人2名と若者1名でスタートしたクリーンチームは、今や大人5名若者19名の大所帯になりました。このチームで、高岡南福祉会の特別養護老人ホーム2棟、そして、小規模多機能施設の清掃に頑張っています。

当時カフェに若者たちが集まってきていて、「この人たちには働く場が必要だ」ということで、「生きづらさ、働きづらさを持つ人たちのための就労支援」として制度外で立ち上げました。清掃会社アドバンス北陸サービスの協力を得てマニュアルを作り、清掃のプロの技術を身につけて、「働く体験」をスタートしました。働くことに自信がつけば、その後の人生はさらに多様な選択肢の中から選んでいけるはず。制度外でやっているのは、福祉就労には合わないいわゆるグレーゾーンの人たちの選択肢になればよいと考えたからです。

5年の間にいろんなことがありました。ここを卒業して新たな仕事についた人もいます。親から自立したいという思いでPonteのシェアハウスに住んでいる人もいます。あるいは、やはり福祉の支援が必要であると判断された人は、B型作業所ガチョックに所属を移して施設外就労ということで働いている人もいます。とりあえず、働く体験をして賃金を得る、そして仲間と共に頑張ることで、自信や次の選択肢を考える余裕ができる。今回も、新たな道に行く人もいて、新たに仲間にもいました。宮下君は新たな道に行く人にお礼の手紙を読み上げました。そして新たに仲間になった人たちの挨拶に温かい拍手が起きていました。

しかし、最低賃金の値上げや社会保険の負担増でこのまま制度外で行けるかどうかの分かれ道に来ているような気もしています。いろんな人のお知恵を借りて、この就労支援は継続していきたいと思っています。



みやの森通信はPonteとやまの就労支援を継続的に取り上げてきました。第11号の就労支援特集ほか、バックナンバーぜひお読み下さい(検索やQRコードこちら)→

みやの森通信

検索



## 編集長 家森謙の 目 体験と経験

▼「厳しい状況下でも笑顔でいられる人材を育成しています！」キャンプ等を多く手掛ける某団体のリーダーが仰っていた言葉。迷いを断ち切る凛とした強い意思が印象的だった。実際、この某団体で育った人材が能登半島地震に遭遇した際、ここでの経験が役に立ったとの事▼体験と経験の違いについて調べてみた。先ず「体験」とは、自分の身をもって実際に行ったり感じたりすることを指す。たとえば「陶芸体験」「スカイダイビング体験」に直接参加し、五感を通じて得られるといった一回性の出来事が「体験」。やってみること自体に価値があり、新鮮さや印象の強さが伴うのが特徴▼一方「経験」は過去に行ったことや出来事を通じて得られた知識・技能・学びの蓄積。例えば「営業の経験がある」「豊富な人生経験」といった場合、単なる一度の出来事ではなく、繰り返しや時間の積み重ねによって形成された能力や見識。「経験」は行為そのものよりもそこから得られた成果や成長に重点が置かれる▼初めて海外旅行に行くことは「海外旅行を体験する」と表現するが、その後何度も旅行を重ね、文化や習慣への理解が深まった状態は「海外旅行の経験がある」と言い換えられる▼キャンプは五感を通じて得られる「体験」の良い機会。日常とは違う不便を受け入れ、乗り越えることで得られる物が有る。そして、それら「体験」の積み重ねが不測の事態にも適応出来る「経験」。これこそ生きる力だ

# Mami のつぶやき



「この世界の誰にでもなれるとしたら、誰になりたい？」  
 さて、どんな可愛い答えが返ってくるかな。  
 橋の終わりに差し掛かった頃、しばらく考えていたノラがこう言った。  
 「うーん、私はわたしでいい！」

これは先日読んだ『ゆるりと風に。ここは北欧』（鍋島綾）に出てきた一節だ。  
 しかし、私にとってはただの読書体験ではなかった。ちょうど1か月前、  
 私はフリスタに通う子どもたちと、まったく同じやりとりをしていたからである。  
 子どもたちにとっては深い意味はなかったかもしれない。けれど、迷いなくそう答える姿は、  
 自分が大嫌いな私にとって衝撃的だった。

思えば、いつからか「何者か」にならなくてはいけないと焦っていた。「誰」になりたいのか  
 具体的には答えられない。それでも、資格を取ったり、手に職をつけたり、何かに秀でることで、  
 みんなに認められる“特別な存在”——つまり「何者か」になりたいと思っていた。けれど、  
 今振り返ると本当に認められたかったのは「みんな」ではなく、「親」だったのだと思う。  
 私になりたかった「何者か」は、親に認めてもらえる『自分』であり、特別になることが目的では  
 なく、ただただ親に見てもらいたかったのだ、と。

今、ここで私はカフェの自分、フリスタの自分。いろんな自分をみんなに作ってもらっている。  
 特別何かしているわけでもなければ、いまだに拘りも強くて、まだまだ発展途上である。  
 それでも、毎日奇声をあげるほど笑ったり、草刈りをしたり、今は「みやのもりのまみちゃん」で  
 いることが心地いい。今が満たされているからこそ思えることだし、子ども達も同じなら  
 とても嬉しい。（小西真実）

広告

誰でも集える居場所 **Secure Base**  
 セキュアベース



オープン時間 毎週 月・水・金・日曜日  
 午後1時から5時  
 住所 高岡市伏木国分1丁目8-1

9月で『Secure Base』は1周年を迎えました！  
 まだまだ進化中の居場所です。ぜひ遊びに来てください。  
 お待ちしています♪

★育児・介護・健康相談  
 ★不登校の子の居場所  
 ★コワーキングスペース  
 ★ワークショップ など開催中



お問い合わせはInstagramのDMで。  
 ワークショップなどの案内はInstagramにて更新中です。  
 よかったらフォローお願いします！

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

みやの森通信

検索 🔍



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索 🔍

